

## 自己概念の明確性および自尊感情と目標志向性との関連 —抑うつと不安を介する間接効果に着目して—

大西彩奈

本研究の目的は、自己概念の明確性および自尊感情が目標志向性に及ぼす直接効果と、抑うつと不安を介する間接効果を男女間で比較検討することであった。自己概念の明確性は自分に対する認識の確信度をさし、自尊感情は自分自身に対する肯定的評価をさす。自己概念の明確性や自尊感情が高いほど、精神的健康が良く (Campbell et al., 1996; MacDonald et al., 2012)、うまく自己制御する (Tangney et al., 2004; Fite et al., 2017)。目標設定には自己概念が関連すると指摘されているが (Light, 2017)、これまで自己概念と目標志向性の関連は十分に検討されてこなかった。そこで、自己概念の構造的側面と内容的側面に関する構成概念の中から自己概念の明確性と自尊感情を取り上げ、利得接近志向と損失回避志向という二つの目標志向性との関連を検討することとした。また、Higgins (1997) の知見を基に、抑うつと利得接近志向が負の関連を持ち、不安が損失回避志向と正の関連を持つと考えられ、抑うつおよび不安が自己概念の明確性および自尊感情から目標志向性への影響を媒介すると仮定した。そして、抑うつおよび不安と目標に対する動機に性差が報告されていることから、本研究においても変数間の関連には性差を想定した。

大学生と大学院生の男女391名 (男性124名、女性267名、平均年齢19.80歳 ( $SD=2.29$ )) を対象に質問紙調査を実施した。自己概念の明確性と自尊感情から利得接近志向と損失回避志向に対して及ぼす直接効果と、抑うつおよび不安を介する間接効果を想定する仮説モデルに対して、男性と女性の多母集団同時分析を行った。その結果、自尊感情から利得接近志向に対する正の直接効果が男女共に示され、自尊感情から損失回避志向に対する負の効果は女性にのみ示された。間接効果の検定により、自己概念の明確性から損失回避志向への影響を不安が完全に媒介することが男女共に示された。自尊感情から損失回避志向への影響については、男性の場合には不安が完全媒介するのに対して、女性の場合には不安が部分媒介することが示された。

自己に対する不確かさや肯定的評価の低さは、人に行動の指針や先の見通しを持たせにくくさせ、人に強い不安を喚起させるとされている (Hogg, 2007)。不安の間接効果からは、不安により注意がネガティブな情報へ偏ることで、損失回避を望ましい最終状態とみなすようになることが推察された。また、リスクを排除して確実に損失回避をすることは、不安の低減と自己の不確かさや統制感のなさを補償すると考えられた。損失回避志向が過剰に高まると、人は委縮して好機を逃すことにつながる (Klenk et al., 2011)。個人が自身の能力を最大限発揮しながら適度にリスク回避していくには、自分をよく知り、肯定的に評価して不安を下げるのが肝要であると考えられた。また、女性の場合には、自尊感情を高めることが損失回避志向を緩和するように直接的に作用すると推察された。